

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》石垣 則昭（非常勤講師）

【概要】

社会的習慣や年齢などを乗り越え、様々な人々と協力して社会生活を営むためには、人との良好な精神交流を維持することが求められる。また社会的有用性の高い人生を過ごすためには、確かな人間力を高めるとともに共感的コミュニケーションスキルを身につけることが重要である。我が国が直面している後期高齢化社会では、社会の構造化の変化に伴う課題ばかりではなく高齢者にどう接し幸福感を供与できるかが社会的課題となっている。本講義では高齢者社会の現状や課題を概観し、学習で得たスキルを社会福祉士施設の介護実習で発揮し、高齢者との人間関係づくりの体験によりコミュニケーションのあり方を展望する。

【学習目標】

- 高齢者を取り巻く現状と課題を理解する
- ユマニチュードの精神の原理と方法を理解する
- 介護実習を行い高齢者への接し方を理解する
- コミュニケーションのあり方を理解し展望を図る

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	講義のオリエンテーション(遠隔)	講義計画と講義の進め方、知識構築型ルーブリック (FAM) による講義評価の説明を行なう。	石垣 則昭
2	実践的コミュニケーションの理解 (遠隔)	実践的なコミュニケーションスキルを概説し理解を深める。	石垣 則昭
3	高齢化社会の現状と課題についての理解 (遠隔)	我が国における高齢化社会の現状と課題を概説し理解を深める。	石垣 則昭
4	ユマニチュードの哲学と基本的技法 (1) の理解 (対面)	ユマニチュードの哲学と基本的技法 (1) を演習により理解する。	石垣 則昭
5	ユマニチュードの哲学と基本的技法 (1) の理解 (対面)	ユマニチュードの哲学と基本的技法 (1) を演習により理解する。	石垣 則昭
6	ユマニチュードの哲学と基本的技法 (2) の理解 (対面)	ユマニチュードの哲学と基本的技法 (2) を演習により理解する。	石垣 則昭
7	ユマニチュードの哲学と基本的技法 (2) の理解 (対面)	ユマニチュードの哲学と基本的技法 (2) を演習により理解する。	石垣 則昭
8	ユマニチュードの哲学と基本的技法 (3) の理解 (対面)	ユマニチュードの哲学と基本的技法 (3) を演習により理解する。	石垣 則昭
9	ユマニチュードの哲学と基本的技法 (3) の理解 (対面)	ユマニチュードの哲学と基本的技法 (3) を演習により理解する。	石垣 則昭
10	加齢による脳の変化と高齢者の生きがいへの理解 (遠隔)	加齢による脳の変化と、高齢者の生きがいへの理解を深める。	石垣 則昭
11	介護施設の入居者を対象にコミュニケーション実習 (対面)	社会福祉施設に訪問し積極的にコミュニケーションを図りユマニチュードの哲学の実践を図る。	石垣 則昭
12	介護施設の入居者を対象にコミュニケーション実習 (対面)	社会福祉施設に訪問し積極的にコミュニケーションを図りユマニチュードの哲学の実践を図る。	石垣 則昭
13	介護施設の入居者を対象にコミュニケーション実習 (対面)	社会福祉施設に訪問し積極的にコミュニケーションを図りユマニチュードの哲学の実践を図る。	石垣 則昭
14	認知症の症状についての理解 (遠隔)	認知症の症状についての理解を深める	石垣 則昭
15	学習のまとめ：今後のコミュニケーションを展望 (遠隔)	学習や実習で理解したコミュニケーションのあり方を展望する。	石垣 則昭

【評価方法】

レポートによる評価

20%

小テストによる評価	20%
講義・実習への参加意欲・態度	60%

**【備考】**

教科書：使用しない。

その他：講師による自作資料（掲示物、配布物など）DVDを使用する。  
コミュニケーションの実習は1日日程で、介護付き老人ホームを予定している。

**【学習の準備】**

本学修はコミュニケーションに関する実習を含め実践的な内容とするため、アクティブラーニングにより講義を進めグループによる活動の機会がある。講義の予習（60分）は、配布の講義資料を熟読、さらに講義内容の予告に従い関連書籍により講義課題の習得に努めること。さらに復習（60分）は、ノート、学修資料、関連書籍により学修内容見直し学修内容の確認と深化に努める。

学修への参加意欲を重視するため、学習過程における形成的自己評価である知識構築ループリックを活用し講義を進める。

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

DP-2（社会の変化、科学技術の進展に合わせて、教養と専門性を維持向上させる能力を修得している）

DP-3（社会の様々な分野において、心の問題を評価し、それを適切に判断し援助できる基礎的技能を修得している）

上記に掲げる心理学部のディプロマ・ポリシーに適合している。

**【実務経験】**

- ・日本教育カウンセラー協会「上級教育カウンセラー」「ガイダンスカウンセラー」
- ・日本協同教育学会「ベシットレーナー」

**【実務経験を活かした教育内容】**

・義務教育学校、教育行政、社会福祉法人での勤務を活かし、教育心理、社会心理、認知心理の視点によりコミュニケーションのあり方を学修する。